

春海橋
耐震

RECC工法を採用

施工性・経済性に優位

東京都第一建設事務所が進める春海橋の耐震補強工事で、複合壁体縮切工法「RECC工法」が初めて採用された。

「春海橋（上り・下り・下り高架）耐震補強工事」は、都の既設橋梁の耐震補強計画に基づき、晴海通りのうち晴海運河を跨ぐ橋長172・8メートルの鋼5径間鉄桁橋の8橋脚（壁式橋脚）を、RC

巻きで補強する計画。

RECC工法は、①高い止水性、②低空頭・浅水域での施工が可能、③プレキャスト部材で構成されるため、あらゆる橋脚に対応できるほか、施工性や経済性に優れる。

据付の手順は、工場製作した鋼製の分割壁体を陸送して地組みし、クレイン付き台船で下部函体を進水。ウインチ付吊り

込み台船で函体を移動し、かん合して着座させ、かん合して着座させた後に、上部止水プレートで複合縮切壁を組成し完了となる。

かん合接続部を、ヒンジ構造としたことで、水中での作業が容易な点も特徴のひとつだ。仮縮切壁体は、上下線2セットで順次8橋脚に転用される。

クリート打設を終えた上で函体を据付し、11月上旬に上り線P3橋脚の仮縮切が完了。現在、巻き立て工が進捗している。補修設計は日本構造橋梁研究所、施工は**大豊・黒部JV**。契約金額は4億8594万円。工期は今年度末まで。



春海橋



RECC工法によるP3の仮縮切